

発情抑制剤投与による若狭牛雌牛の肉質向上技術

若狭牛の雌肥育では、発情に起因する発育や肉質のバラツキがみられています。その改善策として、乳牛の発情を制御するために販売された発情抑制剤を、若狭牛雌肥育牛に投与したところ、発育や肉質向上に効果が見られたので、内容を報告します。

技術内容

(1) 発情抑制剤について

- ・製品名：「ボプリバ」・製造販売元：ゾエティスジャパン（株）
- ・薬剤名：性腺刺激ホルモン放出ホルモン類縁体
- ・コスト：600 円/頭/回

(2) 技術の内容

1 回目は性成熟前後の雌牛の頸部皮下に 1 ml 投与。1 ヶ月後に 2 回目を投与。以後 1 回の投与で約 8 ヶ月効果が持続（図 1）



図1 薬剤投与イメージ

月齢	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
薬剤投与	導入	1 回目	2 回目							3 回目							4 回目				出荷

※ ←→ は効果持続期間

技術の効果

1 日当り増体重は、対象区（DG：0.89 kg）と投与区（DG：0.90kg）では差がありませんでしたが（図2）、枝肉重量（+16kg）、BMSNo（+2.0）、ロース芯面積（+8.8 cm²）は、投与区が対象区に比べ高い値を示し、若狭牛雌肥育牛への効果が期待できました。（表1）

また、今回実証した農家から、「牛が大人しくなり管理がしやすくなった」、「去勢と同じ群での飼養が可能になり、群編成が楽になった」との感想が得られました。

以上のことから、若狭牛雌肥育牛への発情抑制剤投与は、雌牛肥育農家の収益性や安全性の向上、経営の効率化につながる技術であると考えられました。

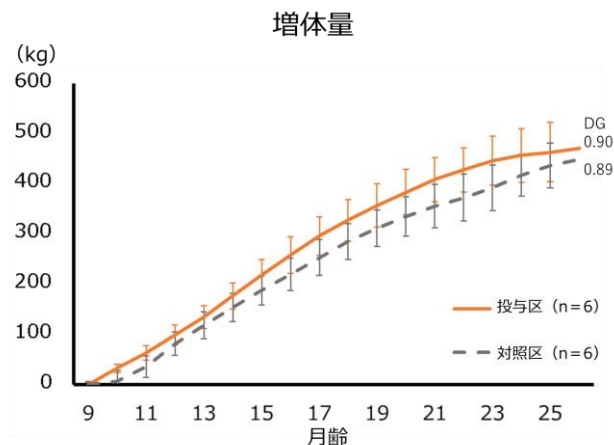


図2 増体量の推移

表1 枝肉成績の比較

	枝肉重量 (kg)	BMSNo(No)	ロース芯面積(c m ²)
投与区	503	9.6	67.6
対象区	487	7.9	58.8
差	16	2.0	8.8